



発行所 秋田魁新報社  
〒010-8601  
秋田市山王臨海町1番1号  
©秋田魁新報社 2021年

# 号外

購読申し込み  
0120-13-1231

電子版  
www.sakigake.jp

モバイル  
m.sakigake.jp



詳しくは「秋田魁新報朝刊」秋田魁新報電子版「さきがけMOBILE」をご覧ください。

# 「縄文」世界遺産に

## 諮問機関が登録勧告

国連教育科学文化機関(ユネスコ)の諮問機関は26日、鹿角市の大湯環状列石と北秋田市の伊勢堂岱遺跡を含む17遺跡で構成する「北海道・東北の縄文遺跡群」(北海道、青森、岩手、秋田)を世界文化遺産に登録するよう勧告した。

7月16〜31日にオンラインで開かれる世界遺産委員会で正式に決まる。本県関係では自然遺産の白神山(1993年登録)以来2件目の世界遺産となる。

縄文遺跡群は、本県の2遺跡のほか、

採集による定住生活が1万年以上続き、17遺跡がこの間の変遷を網羅しているとして政府は2020年、一括で世界文化遺産に推薦した。

当時の北海道・北東北は土器や狩猟道具、遺跡などが共通するひとまとまりの地域と考えられている。豊かな食料資源を背景に狩猟や漁



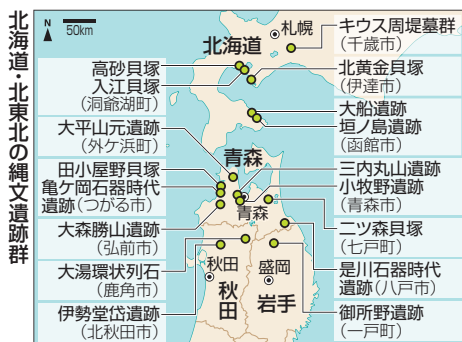
大湯環状列石 (鹿角市)



伊勢堂岱遺跡 (北秋田市)

### 縄文遺跡群を巡る経過

2007年12月	地元自治体が世界文化遺産登録を文化庁に提案
09年1月	国内候補として国連教育科学文化機関(ユネスコ)の暫定リストに記載
18年7月	国の文化審議会が20年の登録を目指す候補に選定
11月	政府が自然遺産候補「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」を優先し、遺跡群の推薦を見送ると発表
19年7月	文化審が21年の登録を目指す候補に選定
20年1月	政府がユネスコに登録を推薦



### 北海道・北東北の縄文遺跡群

秋田と北海道、青森、岩手の4道県にある17遺跡で構成。縄文時代の約1万年にわたり、人が自然と共生しながら定住した。17遺跡は全ての時期区分を網羅し、定住開始期の居住

地から拠点となる集落の形成、共同墓地など祭祀(さいし)・儀礼の場の出現など、暮らしの変遷を切れ目なく示していると考えられる。